

平成 29 年 8 月 16 日現在

機関番号：82667

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25381117

研究課題名(和文) 地域人材の顕在化を目指すeポートフォリオによる学習成果の社会的活用研究

研究課題名(英文) Research for increase of regional human resource to social activities of learning outcome using e-portfolio.

研究代表者

柵 富雄 (SAKU, TOMIO)

公益財団法人学習ソフトウェア情報研究センター・その他部局等・主幹研究員

研究者番号：70470101

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：(1) 理論的枠組みの研究：海外での事例調査や国内の関係機関の調査をふまえ、地域の中核的な生涯学習支援機関を拠点とした地域スキームを構成した。(2) ショーケース機能の向上：学習成果活用支援プログラムを開発し、試行評価によってショーケースを用いた社会的・教育的機能の可能性を明らかにした。(3) 学習成果の社会的活用システムの試行：上記をふまえ地域人材の認定と活動支援を試行し、地域モデルの効果や課題を実証的に評価した。

本研究の成果は、地域で実現可能な枠組みを導き出し、効果や課題を実証的に評価したことにある。社会的な通用性についての可能性や、地域を越えた通用性を確保するための課題も明らかにした。

研究成果の概要(英文)：(1) Research on the theoretical framework: Based on case studies abroad and surveys of relevant domestic related organizations, the regional scheme based on the core core lifelong learning support organization in the region was constructed. (2) Improvement of showcase function: We developed a learning outcome utilization support program and clarified the possibility of social and educational function using showcase by trial evaluation. (3) Trial of Social Utilization System of Learning Outcome: Based on the above, trial of regional human resources certification and activity support was conducted, and empirically evaluated the effect and problem of the regional model.

The result of this research is to derive a feasible framework in the region, and to evaluate the effect and the problem empirically. It also clarified the possibility of social usability and issues to ensure the usability beyond region.

研究分野：生涯学習

キーワード：eポートフォリオ ショーケース 地域人材 eパスポート

1. 研究開始当初の背景

eポートフォリオは、電子媒体に学習者がある学習成果を蓄積するファイルである。同時に、このシステムにより、教授と学習の効率化が図れるだけでなく、振り返り（リフレクション）による学習の深化や自身の能力の実証等社会的に活用できる優れた教育機能を持つ。この教育的機能をさらに社会的に活用する仕組みへと発展させることが本研究の主たる目的である。

eポートフォリオに関する先行研究では、国内外ともに高等教育機関の事例が多く、地域社会への活用については海外に先進的な事例が多い。

海外の大学では多くの社会人が学び直し、研修、学位取得等の目的で学習しており、その枠組みでは、既にeポートフォリオも生涯学習に活用されていると言える。たとえば英国ではPDP（自己開発の計画）[1]というアプローチが進められており、継続的なキャリア開発を目的として、学生の雇用可能性（employability）の向上を支援するツールとしても期待されている。ところが、国内の状況はかなり遅れており、eポートフォリオの導入は高等教育機関を中心に最近になってようやく始められた状況であり、本研究が対象とする生涯学習での活用事例はない。また、国内の研究ではリフレクションの学習機能を中心とし、本研究が目指す就業等の社会参加の促進を目的とした研究事例はみられない。

学習の社会的成果に関する研究としては、OECD教育革新センターによる健康・社会的関与の研究[2]などがある。学習成果の社会的活用については、日本でもようやく中央教育審議会での中間取りまとめ[3]や、第二期教育振興基本計画[4]の中でも重要な課題として取り上げ、その具体的な方法としてeポートフォリオやeパスポートの活用が挙げられた。

このような中で申請者は、平成22年度に富山インターネット市民塾[5]の学習プラットフォームに、eポートフォリオの機能を実装し、高校生、大学生、若者など特定の層を対象にした実験的研究を行い、学習者の主体性や内発的動機づけへの効果を明らかにしてきた。さらに平成23年度は、ショーケース機能の開発と、特定の人材モデル（教育支援人材）について、地域人材の社会的評価のための認定基準の開発を行い、社会的認証とeパスポートの発給を試行し、地域人材としての社会参加モデルの可能性を示した。[6]

2. 研究の目的

本研究は、就業やボランティア活動への学習成果の活用を焦点化し、eポートフォリオの社会的・教育的機能の発展のため次の研究に取り組む。

1) eポートフォリオの社会的・教育的機能への発展に向けた理論的枠組みの研究

生涯学習における多様な学習記録を、学習成果としてどのように意味づけし、社会参加へとどのように役立てるが、eポートフォリオの社会的な活用について、先進事例調査などをもとに、その枠組みを研究することを第1の目的とする。

2) 学習成果と社会を結ぶショーケース機能の向上研究

これまでに明らかになった課題として、学習成果を生かした社会参加の可能性向上のためにはショーケース機能の向上が不可欠である。ショーケース作成の際に、eポートフォリオのジャーナルを整理し、自己の特色と可能性を明確にして学習成果として意味づけする①自己アセスメント機能、また自己評価をeメンター等の支援を得て、多様な社会的可能性に結びつける他者評価を含む②形成的アセスメント機能の充実、さらに求められる人材の形に「翻訳」して自らの可能性を効果的にアピールする力を高める③プレゼンテーション機能等の向上を本研究の第2の目的とする。

3) eポートフォリオを用いた学習成果の社会的活用システムの開発

第3に、eポートフォリオを活用して社会参加へ学習者を導くためには、学習成果を社会的に認証し、地域人材として認定する社会的活用制度が必要となる。これまで特定の人材モデル（教育支援人材）について、地域人材の社会的評価のための認定基準の開発を行い、社会的認証とeパスポートの発給を試行してきたが、本研究では、特に、就業とボランティア活動への社会参加に重点を置き、社会が求める幅広い人材要件に応じた到達目標（ルーブリック）と社会的認証の評価基準の開発を行い、地域システム（地域人材認定機構）としての仕組みづくりに取り組む。

3. 研究の方法

【平成25年度】eポートフォリオの発展的活用の理論的枠組みの形成

1) 欧米を中心とした先進事例調査と先行研究文献調査による理論的研究

- ・ キャリアデザインを前提とした大学生の雇用可能性の向上にeポートフォリオを役立てている事例として、イギリスの大学におけるPDPと全英支援機関（CRA）がある。employability向上を支援するeポートフォリオの活用事例、リクルーターへのプレゼンテーション手法における活用事例を調査する。（CRA: Centre for Recording Achievement）
- ・ 教育分野以外でのポートフォリオ活用事例調査として、健康管理、経営資源分析、ジョブ・カード制度、就活指導等での活用事例を調査する。

2) インターネット市民塾利用者調査とeポートフォリオ利用のための啓発講座の開設

- ・ インターネット市民塾利用者を対象に、学習成果の記録状況、学習成果の活用意向、課題等を調査する。(アンケート調査、ヒアリング調査)
- ・ eポートフォリオの活用を啓発するため、インターネット市民塾に啓発講座を開設する。

【平成 26 年度以降】

平成 26 年度以降は、実際的な e ポートフォリオの運用を行いながら、ショーケース機能の向上と、ループリックの開発、地域人材認定機構の構築により、学習修了者への社会的認定を行うとともに、研究の理論的・実践的課題を整理した報告書を作成する。

<平成 26 年度>市民塾利用者の e ポートフォリオ利用によるショーケース機能の向上

1) 市民塾利用者の e ポートフォリオ利用の拡大とショーケース機能への評価調査

- ・ eポートフォリオの新たなショーケース機能として、「自己アセスメント機能」、「形成的アセスメント機能」、「プレゼンテーション機能」を開発する。
- ・ 開発したショーケース機能をインターネット市民塾に実装し、インターネット市民塾利用者の協力を得て、eポートフォリオをもとにショーケース作成を進め、その利用評価を得る。

2) ショーケース機能改善のための取り組み

- ・ 利用者からの評価をもとに改善点を抽出し、機能改善を施す。

3) 社会的認定基準作成のための地域ステークホルダー調査

- ・ ショーケースを通じた学習成果の社会的な評価方法について、企業、商工会議所、ボランティア支援センター等の関係者を対象に、地域人材の採用、活動機会創出における情報要件について調査する。

調査手法：ヒアリング調査

調査対象：地域企業、商工会議所、ボランティア支援センター等の関係者

4) 試行的な認定基準に基づくループリックの作成

前年度に行ったステークホルダー調査の結果の分析と考察、及び 25 年度先行研究調査の理論的枠組みにより、学習成果の達成目標を設定する。設定した達成目標について、受講者のショーケース作成に反映する。

<平成 27 年度>認定基準の開発と地域人材認定機構による社会的認定

1) 就業やボランティア活動等の目標に応じた認定基準の開発と活用システムの構築

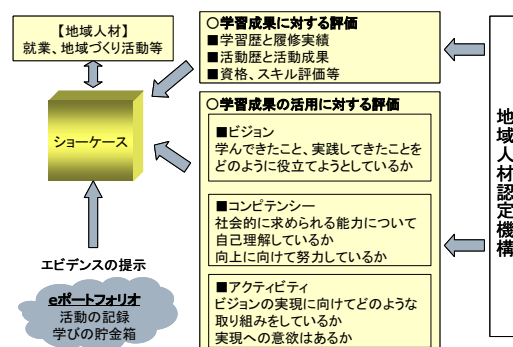
平成 26 年度まで取り組みを踏まえて、地域人材としてのループリック、評価基準を開発するとともに、25 年度からの利用者を対象に、地域社会のステークホルダーか

ら構成する地域人材認定機構を編成する。

- ・ 評価基準の開発
就業を目指す地域人材および各種ボランティア活動への参加を目指す地域人材を対象に開発する。
- ・ 地域人材認定機構の編成
地域のステークホルダーより参加を求め編成する。

2) 学習者への社会的認定と報告書作成 (理論的・実践的課題のまとめ)

- ・ 地域人材の認定と e パスポートの発行
地域人材認定機構による人材認定と e パスポートの発行を試行し、評価と課題をまとめる。



4. 研究成果

1) 枠組みの研究にあたり、フランスにおける地域人材の顕在化に e ポートフォリオを活用する事例や、イギリスにおける学習・業績記録の促進と自己開発を支援する枠組みなどを参考とした。一方、国内では学習成果を生かそうとする市民と、その支援を行う側の関係機関のそれぞれへのアンケート調査をふまえ、e ポートフォリオの記録からショーケースへを通じた学習成果の公開、学習成果を活用した社会的活動に結びつための阻害要因や、支援システムと運用に求められる課題を整理した。

2) 一人ひとりの e ポートフォリオを、社会的な活動に結びつけるショーケースの発展的機能について研究を行った。社会的な通用性については、ショーケースに掲載された学習成果や業績、社会的な活動への目標、コンピテンシー等について、地域の産学官から構成する評価・認定機構による人材認定の枠組みをもとに、ショーケースの発展的活用を図る学習成果活用支援プログラムを開発し試行評価による効果の確認と課題を考察した。

3) 常軌をふまえ、支援プログラウやそのプログラムを効果的に運用する地域体制のあり方、支援人事の役割など、e ポートフォリオとショーケースを活用する地域モデルを検討し、それらの効果や課題を実証的に評価した。

本研究の成果は、地域の中で実現化の馬鞍組みを導き出し、それらの効果や課題を実証的に評価したことにある。同時に、学習成果や業績をもとにした人材認定では、地域を越えた通用性を確保するための課題も明らか

にした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 柵 富雄、学習成果の活用を考える市民の課題と支援方策の考察、日本生涯教育学会論集、査読有、37号、2016、201-210

[学会発表] (計 2 件)

- ① 柵 富雄、学習成果の活用を考える市民の課題と支援方略の考察、日本生涯教育学会、2015. 11. 8、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター (東京都)

- ② 柵 富雄、山西潤一、杉本圭優、電子版生涯学習キャリアシート(ショーケース)の活用評価 -学習成果を生かした社会活動を支援する-、日本教育工学会、2014. 9. 20、岐阜大学 (岐阜市)

[図書] (計 1 件)

- ① 柵 富雄、日本生涯教育学会、生涯学習 e 事典「学習成果活用支援方略」、2017、3 頁 (Web ページ)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

①A research on using ePortfolio to support practical use of learning achievements and actualization of regional human resource
https://shiminjuku.org/pluginfile.php/347/mod_resource/content/4/ePortfolio_eng_1.pdf

②Reflection of self-learning by e-Portfolio and showcase system to develop for human resource.
-For raising the learning motivation of citizen as a Lecturer-、Centre for

Recording Achievement、2015. 4. 17、University of Plymouth(UK)
[https://shiminjuku.org/pluginfile.php/353/mod_resource/content/1/CRA プレゼン Final \(圧縮版\).pdf](https://shiminjuku.org/pluginfile.php/353/mod_resource/content/1/CRA プレゼン Final (圧縮版).pdf)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柵 富雄 (TOMIO, Saku)
(公財) 学習ソフトウェア情報研究センターコンテンツ研究部主幹研究員
研究者番号 : 70470101

(2) 研究分担者

山西 潤一 (YAMANISHI, Junichi)
富山大学・人間発達科学部・名誉教授
研究者番号 : 20158249

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :

(4) 研究協力者

()